

令和6年度 第1回「ふるさと岐阜 古地図散歩」(10月13日実施)

「関ヶ原宿～垂井宿 一いにしえより歴史を刻む中山道をゆく」 講師：小玉 義弘 氏

【当日コース】

①関ヶ原駅(集合)→②本陣跡・脇本陣跡→③桃配山・家康最初陣地→④野上の松並木(昼食)→⑤大海人皇子野上行宮跡→⑥野上の南整理遺跡→⑦垂井一里塚→⑧高札場跡・本龍寺・芭蕉句碑→⑨小林家住宅主屋(油屋)→⑩垂井の泉→⑪南宮大社の石鳥居→⑫亀丸屋(旧旅籠)→⑬紙屋塚(美濃和紙発祥の地)→⑭垂井駅(解散)

1. 概要(当日レジュメより)

- ② 関ヶ原宿は、中山道69宿の58番目の宿場。東西に走る中山道に北から北国街道、南から伊勢街道が交わる交通の要衝で賑わった宿場。
脇本陣跡には、脇本陣門だけが残る。脇本陣の隣に本陣があったが今は面影が全くなく、表示もない。
- ③ 672年の壬申の乱の際、大海人皇子が字名「桃配」の地で、山桃を全兵に配り勝利した縁で「桃配山」と呼ばれる。徳川家康は慶長5(1600)年9月15日午前6時頃、桃配山に布陣。
- ④ 岐阜県内の中山道で唯一の貴重な松並木。約500mの松並木に93本が現存。
- ⑤ 大海人皇子は、野上の長者屋敷と呼ばれる小高い小平地に行宮を興して本営とした。大海人皇子による大友皇子の首実検も、この地で行ったといわれる。
- ⑥ 一般国道21号関ヶ原バイパス建設に伴う発掘調査をした場所。
- ⑦ 国史跡は中山道で2件のみ(東京・志村と垂井のみ)。国史跡の一里塚は、東海道には4件あり、全国でも17件のみしかない。道路南側に当時の形のまま残る貴重な一里塚。
- ⑧ 高札場跡は、本龍寺山門前にあり、横幅5m、高さ約4m、奥行約1mだった。この高札場は、150年ぶりに復元された。9月8日に完成式を行なった。
松尾芭蕉は、4度垂井を訪れた。1858年に芭蕉ゆかりのこの寺に時雨庵を建立。
- ⑨ 当家は、油屋を営んでいた宇吉家から小林家が明治14年に譲り受け、明治初期まで「亀谷」の屋号で旅籠を営んでいた建屋。
- ⑩ 岐阜県の名水50選に選ばれた「垂井の泉」は、垂井という地名の起こりとされている由緒ある泉。
- ⑪ 1643年、徳川家光が南宮大社と共に寄進。石屋権兵衛が400両(約1.2億)で造る。地震対策で、約2.5m地中に埋まっている。
- ⑫ 亀丸屋の創建は、この鬼瓦の銘から安永6年(1777年)とされる。平尾村瓦屋・川村惣吉、瓦師・今村庄助との銘あり。
- ⑬ 奈良時代、美濃国の官設の抄紙場(すきかみば)があり、美濃紙発祥の地とされる。平安時代には、紙すきの技術者・宇保良信(うぼりょうしん)がこの紙屋に勤めていた記録が残る。

《古地図散歩の様子》

①関ヶ原駅から出発!



③桃配山・家康最初陣地



⑧高札場跡・本龍寺



⑩垂井の泉



2. 訪れた場所 コース図

県域統合型 GIS ぎふ より

